

「心理学が解き明かす赤ちゃんの謎」

本講演では、心理実験によって明らかにされた、赤ちゃんから見た世界を紹介します。私たちは、色・形・動き・空間といったさまざまな視覚情報を統合して世界を見ていますが、こうした視覚世界は生まれつき備わっているものではありません。成人のように世界を見るためには、視覚機能の成熟化と環境による学習が必須とされます。中でも視覚の発達は、生後8ヶ月までにかなりの発達がみられることがわかっています。

私たちの研究室では生後2～8ヶ月を対象として、比較的高次の視覚機能を調べる実験を行っています。特に、人が得意とする複雑なパターンである顔認知発達については、乳児の脳活動を計測した一連の研究と、錯視図形の研究を紹介します。近年開発された近赤外線分光法（NIRS）を用いて、乳児の脳活動を計測することが可能となりました。この機械を用いて、乳児が顔を見ている時に顔特有の脳の部位が活動することを示すことができた、一連の研究についてお話しします。

2010年**1月15日**（金）18:15～19:45

慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎2階大会議室

参加費：無料（事前申し込み不要）

講師：山口 真美

◇中央大学文学部教授



REC for NS

research and education center for natural sciences

